

日・ベルギー関係概観

～150年の歩み～

在ベルギー日本国大使館

北郷恭子

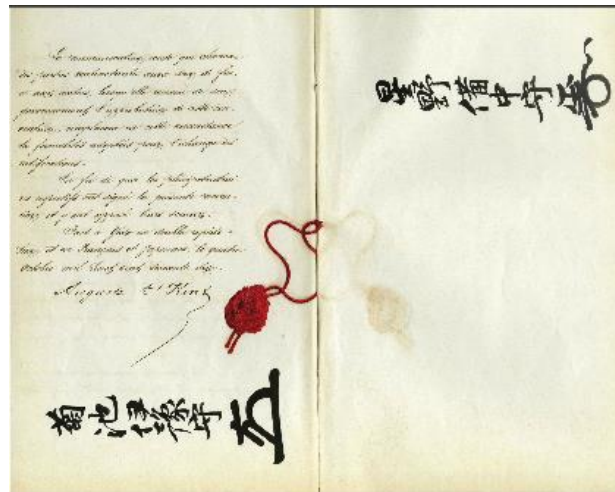
- 1 日・ベルギー関係の黎明～戦後期
- 2 経済面を中心とした関係の発展と深化
- 3 文化
- 4 政府間関係等
- 5 日本の皇室とベルギー王室の特別な関係
- 6 今後の日・ベルギー関係の強化・発展に向けて

1 日・ベルギー関係の黎明～戦後期

・最初のコンタクトは日本を訪問したベルギー人宣教師・・・マンテルス(1588), フラレイン(1620), トウルーヴェ(1613, 1617): マンテルスは病を得て日本を去り, 後の2人は焚刑に

・1866年に日白修好通商航海条約締結

1865年にベルギーの外交官トキント・デ・ローデンベークが訪日し, 翌66年8月に締結。



また, ベルギーとゆかりの深いフランス人, シャルル・ド・モンブラン伯(インゲルミュンステル男爵)は, 島津侯の顧問次いで明治新政府の顧問的な存在として日本に滞在した。

・明治期にベルギーが日本に与えた影響:

日銀はベルギー中央銀行をモデルとして設立された。

憲法起草に当たっても、ベルギー憲法はプロシヤ憲法に次いで翻訳される等、研究がなされた。

1871-73年に欧米諸国を訪問した岩倉使節団は、ベルギーは欧州大陸で最も早く産業革命を達成し、また大国に挟まれているが世界貿易に影響を与え、成功している国として、学ぶ点があるとその報告書「米欧回覧実記」に記している。

・大正期～:

第1次大戦でドイツに侵略されたベルギーの勇敢な抗戦ぶりが日本でも知られ、ベルギーに対する義援金、日用品がベルギー軍、国民に送られた。

関東大震災の際には、ベルギーが義援金を日本に。

・第二次大戦中:ベルギーとの国交は断絶。

・戦後:

関係が再開し、経済関係を中心に発展。

2 経済面を中心とした関係の発展と深化

- ・極めて早い時期にベルギーと関係のあった日本企業
- ✓ 旭硝子: 1909年にベルギーの技術(手吹法)を導入して板ガラス製造を開始。1981年ベルギーのグラバーベル社に資本参加。その後AGCヨーロッパに。
- ✓ 日本郵船は1896年に日本からアントワープへの航路を就航させた。

・戦後初期の投資のいくつかの例・・・

- ✓ 対白投資: **ホンダ・モーター・ヨーロッパ**(アールスト)(62年)
- ✓ 対日投資: **ベカルト社**(宇都宮)(68年)

その後、70年代に多くの日本企業がベルギーに投資。

現在、概ね**240社**の日本企業がベルギーに進出、**70社**のベルギー企業が日本に進出していると見られる。日本のベルギーへの投資残高は、オランダ、英国に次いで**欧州第3位**。

・貿易についてマクロ的に見ると・・・

1962年のベルギーの対日経済ミッション: 日・ベルギー間の貿易増大のきっかけ

- ✓ GATT第35条援用(協定の不適用)の撤回→関税について最恵国待遇供与
- ✓ 日白協会兼商工会議所(BJA)の前身となる日白協会の創設(63年)

その後、60年代後半は双方向の貿易関係が急増し(60年台前半と比較して輸出入共に70~80%の増)、70年代以降も安定的に増大した。60年代以降、常に日本の輸出超過となっている。

・ベルギーは、特に70年代終盤以降、日本の貿易黒字が世界的に問題視された時代に大規模な対日経済ミッションを派遣。日本側も、経団連によるベルギー訪問団や日本におけるベルギー企業に対する支援を通じ、両国間の貿易投資関係の拡大に努力した。

・95年までのベルギーから日本への最大の輸出品目はダイヤモンド。それ以降は、自動車関連が最大となった。

現在は、日本からは自動車・関連部品、有機化合物、プラスチック等、ベルギーからは医薬品、自動車・関連部品、ダイヤモンドがそれぞれの主要輸出品目。

・輸出額については、日本からの輸出がベルギーからのその2倍強で安定している。(かつては3倍近かった。)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
対ベルギー輸出額	5,860	5,420	5,005	5,167	5,868
対ベルギー輸入額	2,056	2,674	2,189	2,424	2,669
日の収支	3,804	2,745	2,816	2,743	3,199
対ベルギー投資額 (ストック)	11,509	11,444	13,850	20,539	21,314
対日投資額 (ストック)	77	128	194	-24	995

(単位: 億円)

【出典】財務省貿易統計、日銀

3 文化

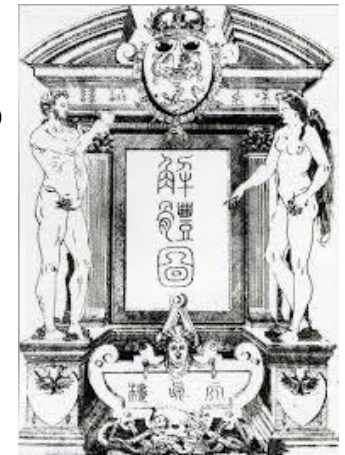
ベルギー文化の日本への伝播

- ・国交を結ぶ以前にも、ベルギー芸術は日本に入ってきている。(フラマン版画、タペストリー等)



祇園祭の鯉山の飾り(1700年代に日本に伝わった?)

- ・解剖学、植物学の分野でも江戸時代にフラマン人によるオランダ語の文献が伝わっている。



解体新書(1774)の扉絵, 図解

- ・1900年代には「フランダースの犬」、「青い鳥」等日本人が誰でも知っている文学作品も。
- ・現在は・・・クラシック音楽, バレエ, 絵画等の分野で当地で活躍する日本人。芸術分野での留学生も比較的多い。

日本文化のベルギーにおける普及

- ・19世紀・・・ジャポニズム:アールヌーボーへの影響

- ・ユーロパリア89:日本がテーマ国となり,ベルギーにあらゆる日本文化がより本格的に伝わるきっかけとなる。

- ・現在は,ベルギー人の間に日本の伝統文化に対するあこがれ。また,漫画等のポップカルチャーへの関心も高い。和食も世界的ブームの中で知られてきている。

- ・日本語への関心

ベルギーにおいて日本学専攻者と日本語教育機関の学習者の合計は約1,300人。

学術・科学技術面での交流

- ・大学間交流:日本とベルギーの大学の間には,協力協定が50程度ある。学生,教員の交流や,共同研究の実施等種々の交流が進められている。

この関連で,国費留学生として日本に渡航する学生も毎年10名前後。

ベルギー政府奨学金による日本人留学生は例年8人。

- ・IMECへの研究者の派遣

- ・日本とベルギーの原子力関係機関間の協力 等

4 政府間関係等

- ・1866年に両国が公使館を設立。1921年に大使館に格上げ。第2次大戦中一旦断絶したが、戦後日本の主権回復と共に関係再開。
 - ・国交を結んで以来、**基本的には良好な関係を継続**。二国間の懸案事項があまりないのも、**価値を共有できる国**であり、**根深い対立が起こりにくい**ため。
 - ・**経済交流の増大とともに人の交流も増大し、様々な分野での協力関係が生まれている**。それに伴い、50年代後半より、**二国間条約が締結されている**。
 - 査証免除協定(56年)
 - 航空協定(59年)
 - ベネルクス通商協定(60年)
 - 租税条約(68年)
 - 文化協定(73年)
 - 社会保障協定(2005年)
 - ワーキングホリデーにかかる協定(交渉中)
- 等
- ・**二国間のみならず、国際場裏での協力関係も緊密**。
一例・・・**国連安全保障理事会改革**

・姉妹都市等を通じた交流もある。

兵庫県姫路市=シャルルロワ市(65年)	石川県金沢市=ゲント市(71年)
石川県小松市=ヴィルヴォールド市(74年)	兵庫県伊丹市=ハッセルト市(85年)
愛知県長久手市=ワートルロー市(92年)	埼玉県羽生市=デュルビュイ市(94年)
岐阜県飛騨市=リバン市(96年)	茨城県結城市=メッヘレン市(96年)
名古屋港=アントワープ港(88年)	博多港=ゼーブルージュ港(99年)
名古屋港=ゼーブルージュ港(2013年)	名古屋市栄町商店街=ルイーズ通り商店街(2014年)

5 日本の皇室とベルギー王室の特別な関係

昭和天皇が皇太子時代に1921年にベルギーをご訪問されて以来、日本の皇室とベルギー王室は世代を超えて非常に親しくされている。

昭和天皇は、戦後、1971年に初めて欧州をご旅行された際にベルギーをご訪問し、歓待を受けた。

ボードワン国王は大喪の礼(89年)及び即位の礼(90年)にご出席。

93年には、天皇陛下はボードワン国王の葬儀と国賓訪問で2度ベルギーをご訪問。

皇太子殿下はフィリップ国王と同年齢(60年生まれ)。

昨年12月には、ファビオラ王妃の葬儀に皇后陛下がご出席。

6 今後の日・ベルギー関係の強化・発展に向けて

現在、在留邦人数は約5,500人程度で推移。ビジネスで、学校で、日常生活の様々な場面で、日本とベルギーの交流が行われている

・・・これからの日本とベルギーの関係強化は皆の手に

日本・ベルギー友好150周年HP

<http://www.be.emb-japan.go.jp/150jb/jp/index.html>